

航空写真を眺めてもその存在を確認するのは困難である。地形図を眺めて等高線間隔が大きく広がった緩斜面の樹林帯を狙うとよいかもしれない。

今回報告した5地点の水辺はいずれも同一水系に属するが、最も高標高の地点Eで確認された水生甲虫はマメゲンゴロウのみであった。地点Eの環境は、標高差を除けば、地点Aの沢周囲の湧水流による微小湿地と同様であると思われるが、マメゲンゴロウは、地点Aでは池の水際で得られているだけで、上流側の微小湿地ではまったく確認できていない。分布の境界がどこにあるのか、今後の調査課題である。

今回の調査で、アサヒナコマルガムシが生息するような微小湿地では、*Hydraena* sp. 1もセットで見つっている。このような微小湿地で見つかるダルマガムシは湿地性のホソダルマガムシと思われるが、地点Dにおいては、ホソダルマガムシに酷似した明らかに流水性と思われる個体が水没した流木から得られている(図3-4)。地点Aで得られた個体には両種が混在している可能性があり、標本の検討も不十分なため、追加の調査結果も含めて改めて報告することとしたい。

おわりに

今回紹介した高標高地の緩斜面の湧水流のような環境は、地形図を眺める限り、長野県に限らず

至る所にありそうである。同好諸氏の方々も、本報告をヒントに、アサヒナコマルガムシの新生息地を探索されたい。

謝辞

末尾ながら、関連する文献をご提供いただいた岩田泰幸氏に感謝申し上げる。

引用文献

- 長谷川道明, 1988. アサヒナコマルガムシを岐阜県天生湿原で採集. 甲虫ニュース, (83-84): 8.
- 岩田朋文・佐野真吾・栗原 隆・岩田泰幸, 2019. 栃木県のクビボソコガシラゴミシとカミヤコガシラミズムシの再検討. インセクト, 70 (1): 5-11.
- 森 正人・北山 昭, 2002. 図説日本のゲンゴロウ改訂版, 231 pp., 文一総合出版, 東京.
- 長野県, 2020. 信州くらしのマップ. <http://www.gis.pref.nagano.lg.jp/pref-nagano/Portal> (2020年2月13日閲覧).
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫, 351 pp., 文一総合出版, 東京.
- Satô, M., 1982. The coleoptera of the Ozegahara moor. Hara, H. (ed.), Ozegahara: Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan, pp. 379-408, Japanese Society for the Promotion of Science, Tokyo.
- 佐藤正孝・吉富博之, 2018. ガムシ科. 川合禎次・谷田一三(編), 日本産水生昆虫 科・属・種への検索(第二版), pp. 751-762, 東海大学出版部, 平塚.
- 高野 勉・大桃定洋, 2005. 茨城県産甲虫リスト補遺(1). るりぼし, (32): 35-61.

(2020年2月14日受領, 2020年5月3日受理)

【短報】千葉県と静岡県からのコケシトガリハネカクシの記録

コケシトガリハネカクシ *Medon tomokoae* Shibata et Fujimoto, 2017 は、香川県の瀬戸内海沿岸部(小豆島, 丸亀市の広島および本島を含む)から得られた



図1. コケシトガリハネカクシ(千葉県南房総市産, スケール1 mm).

標本をもとに、最近になって記載された潮間帯性のハネカクシである。

本州においては、神奈川県海岸からのみ知られる(齋藤, 2019)。筆者は、本種を千葉県および静岡県において確認しているので報告する。

1 ♂, 千葉県南房総市千倉町大川, 4. V. 2012; 1 ♂, 6 exs. (性別未決定), 静岡県静岡市清水

区三保吹合の岬, 22. X. 2016, 筆者採集, 保管。

千葉県においては、岩礁地帯に接した小さな浜辺で、干潮時に半分埋まったこぶし大の石下より採集した。現時点で本種の東限記録となる。同所的にはヒラズイソアリヅカムシ *Physoplectus reikoeae*



図2. コケシトガリハネカクシ確認環境(静岡市)。

(Sawada, 1992) やミミズハゼの一種がみられた。

静岡県においては、ハネカクシ談話会メンバーによる 2016 年度の現地合同調査会で海岸性の甲虫類を調査していた折に、小さな礫を多数含む砂浜海岸の汀線付近で浜に点々と落ちていた半分埋まった小石の下よりクロイソハネカクシ *Halorhadinus aequalis* Sawada, 1971 とともに採集された。同環境で確認されたクロイソハネカクシについては既報済みである (亀澤・野村, 2017)。

末筆ながら、本種の標本写真を撮影して下さった小野広樹氏 (相模原市)、本種の記録について教えて下さった藤本博文氏 (高松市)、静岡市の海岸部での調査にお付き合い下さった野村周平博士 (国立科学博物館)、調査会全般でお世話になった岸本年郎博士 (ふじのくに地球環境史ミュージアム) ならびに島田孝氏 (静岡市) の両幹事、当日参加のハネカクシ談話会メンバーに心よりお礼申し上げる。

引用文献

- 亀澤 洋・野村周平, 2017. 静岡県からのクロイソハネカクシの採集記録. ハネカクシ談話会ニュース, (46): 4.
齋藤 理, 2019. 本州におけるコケシトガリハネカクシの記録. さやばねニューシリーズ, (34): 58.
Shibata, Y. & H. Fujimoto, 2017. A new intertidal species of the genus *Medon* (Coleoptera, Staphylinidae, Paederinae) from Kagawa, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7 (1): 55–60.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】長野県におけるアサヒナコマルガムシの記録

アサヒナコマルガムシ *Anacaena asahinai* は、体長 2.1–2.5 mm のガムシ科の一種である (Satô, 1982; 佐藤・吉富, 2018)。基準産地は群馬県尾瀬ヶ原湿原であり、これまで北海道および中部以北の本州各地 (岩手県、宮城県、群馬県、岐阜県) における高層湿原から記録されている (Satô, 1982; 高橋, 1995; 長谷川, 1998; 茶珍, 2015; 佐藤・吉富, 2018)。筆者らは、未記録の長野県において本種を



図 1. 長野県菅平高原産アサヒナコマルガムシ。

採集したため、ここに記録する (図 1)。

1 ex. (+ 多数目撃), 長野県上田市菅平高原, 4. X. 2019, 山本鷹之の採集, 渡辺黎也保管。

4 exs., 長野県上高井郡高山村高井, 29. IX. 2019, 大山健太採

集, 保管。

菅平高原の産地では、森林内を流れる小川の岸際に堆積した湿った落葉上において複数個体が確認された。高山村の産地においては、ため池の岸際に堆積した落葉をかきまぜたところ、複数個体が水面に浮いてきた。

引用文献

- 茶珍 護, 2015. 群馬県産流水性甲虫類の分布記録. ホシザキグリーン財団研究報告, (18): 231–249.
長谷川道明, 1988. アサヒナコマルガムシを岐阜県天生湿原で採集. 甲虫ニュース, (83, 84): 8.
Satô, M., 1982. The coleoptera of the Ozegahara moor. Pp. 379–408. Ozegahara: Scientific Researches of the Highmoor in Central Japan 1982, Japan Society for the Promotion of Science, 456 pp.
佐藤正孝・吉富博之, 2018. コウチュウ目 (鞘翅目) Coleoptera. pp. 707–790. 川合禎次・谷田一三編. 日本産水生昆虫科・属・種への検索 (第二版). 東海大学出版部. 1730 pp.
高橋泰美, 1995. 岩手県ワシズノ沢の湿原で採集されたアサヒナコマルガムシ. 岩手蟲乃會會報, (22): 15.

(渡辺黎也 226-0019 横浜市緑区中山 1-11-10

藤山荘 205 E-mail: biolfe14.cb@gmail.com)

(山本鷹之 791-8013 松山市山越 1-2-5

リューレント山越 403)

(大山健太 388-8012 長野市篠ノ井二ツ柳 2187-5

フォーブル篠ノ井 201 号)

【短報】久米島におけるシバオサゾウムシの記録

シバオサゾウムシ *Sphenophorus venatus vestitus* Chittenden, 1904 は北米原産の外来種で、北海道を除く日本各地で発見されている。有本 (2018) によれば、南西諸島では種子島、奄美大島、沖縄島、北大東島、宮古島、西表島で記録されている。筆者は、未記録であった久米島で本種を採集しているので報告する。

1 ex., 沖縄県久米島町大原 (シンリ浜海浜公園), 22. VIII. 2019; 1 ex., 同所, 23. VIII. 2019, いずれも筆者採集・保管。

海岸近くの整備された芝地で、地表にいた個体を得た。

引用文献

- 有本晃一, 2018. 宮古島におけるシバオサゾウムシの記録. さやばねニューシリーズ, (32): 34.

(中村 涼 286-0035 成田市囲護台 3-5-5)